

科目名		サブタイトル	担当教員	配置学年	単位数
鉄道経済学		経済学の視点から鉄道を考える	未定	2年次後期	2
科目区分	専門	キーワード	運賃理論、鉄道の費用構造、鉄道の経営、国営・公営・民営		
ディプロマポリシーとの対応		2. 交通産業および関連分野での基礎能力(技術・理論)を有し、関連分野で活躍可能な能力			
カリキュラムポリシーとの対応		1. 一般教養および専門的(交通・観光関係)な知識と実践力とを総合的に身につける 2. 交通産業および関連分野で活躍するための基礎能力(技術・理論)を身につける			
事前に受講するとよい科目					
講義の目的	近代的交通手段として日本に鉄道が開業して150年、新幹線が開業して約60年弱。鉄道は日本経済の発展に大きな貢献を果たしてきた。他方で地方部を中心に鉄道廃止、バス転換等も進みつつあり、地方鉄道の存廃について、研究や検討されている。本科目は、鉄道事業の特性や問題点について、経済的な視点から考え、習得する。				
到達目標	今後の「鉄道のあり方」について、受講生が論理的な私見を述べられるようになることを目標とする。				
講義内容	基本的な経済学の理論を用いて、鉄道事業の特性を説明する。このことで、なぜ、鉄道が国営・国営になったのか、また、国鉄(国鉄)が経営破綻し、民営化した理由は何か、これまでの鉄道経営方法は適切なのか、今後の鉄道経営のあり方などについて考える。				
講義スケジュール		タイトル	内容		
	第1講	オリエンテーション	講義の内容や進め方、成績評価、留意点の説明		
	第2講	経済学の基礎理論	企業の費用構造		
	第3講	鉄道事業の特性	費用を中心とした特性		
	第4講	鉄道輸送統計の見方(1)	日本の鉄道旅客輸送の推移		
	第5講	鉄道輸送統計の見方(2)	日本の鉄道貨物輸送の推移		
	第6講	運賃の理論と実際	運賃をどう定めるのが社会的に望ましいか		
	第7講	鉄道改革について(1)	日本国鉄の分割民営化		
	第8講	鉄道改革について(2)	欧米主要国の鉄道改革		
	第9講	鉄道事業の経営形態	国営・公営・民営、上下分離、オープンアクセス		
	第10講	鉄道事業の現状と課題	人口偏重がもたらす鉄道事業の持続困難性		
	第11講	鉄道事業への政府の関わり	公的な規制や補助、関与		
	第12講	鉄道活性化の取り組み(1)	JR旅客各社の取り組み		
	第13講	鉄道活性化の取り組み(2)	大都市鉄道会社の取り組み		
	第14講	鉄道活性化の取り組み(3)	地方鉄道会社の取り組み		
	第15講	まとめ	日本の鉄道200年への展望		
指導方法	毎回、レジュメ(プリント)を配布する。このレジュメはファイルに綴じておくのが望ましい。また、本試験だけでなく、課題レポートも課して、鉄道事業について経済学の視点から理解を深めていく。				
事前学習	(40分程度) 初回を除いて、講義終了前に次回の予告を説明するので、参考書に挙げた書籍などで未習の用語などを理解しておき、わからない用語は授業前後に質問できるよう整理しておく。また、いくつかの鉄道会社の経営状況や輸送実績を、有価証券報告書を入手して調べる。				
事後学習	(60分程度) 配付したレジュメをきちんと整理し、自分の手でその日の授業のポイントを簡単にまとめておく。必要に応じレポート課題に取り組む。				
成績評価方法	本試験(筆記試験)48%、平常点(小テスト、レポート等)52%、計100%で成績評価する。				
テキスト	毎回、レジュメを配布するので、特にテキストを指定しない。				
参考書籍	斎藤峻彦、『鉄道政策の改革 鉄道大国・日本の「先進」と「後進」』、成山堂書店、2019年。藤井彌太郎監修、『自由化時代の交通政策 現代交通政策2』、東京大学出版会、2001年。				
特記事項	内容は変更になる場合があります。その際は改めて連絡します。				